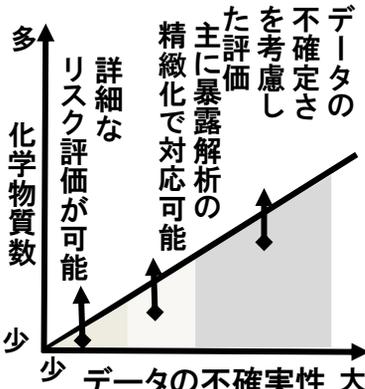
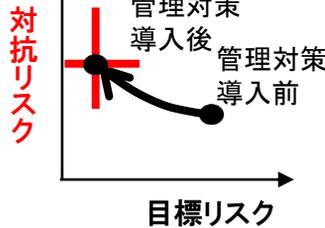


## 1. 研究開発の背景 リスク評価法に対する課題 2. 研究の全体像

リスクに基づいた化学物質管理が推進される一方で、新たな課題も明らかになってきた。

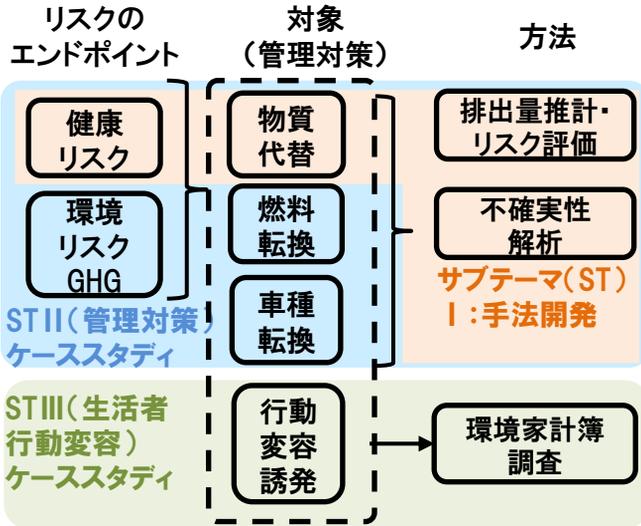


新たな課題



①データの不確実性を前提とした評価手法の導入

②政策介入前後のリスクトレードオフ



自動車を対象として

## 3. 研究結果

活用する情報  
【リスク評価シート】

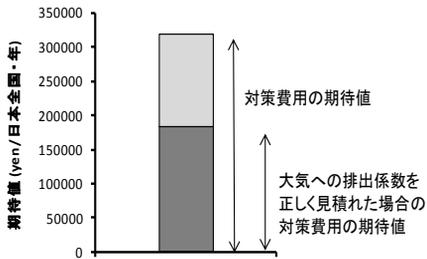
●リスク対策情報

●暴露情報

●有害性情報

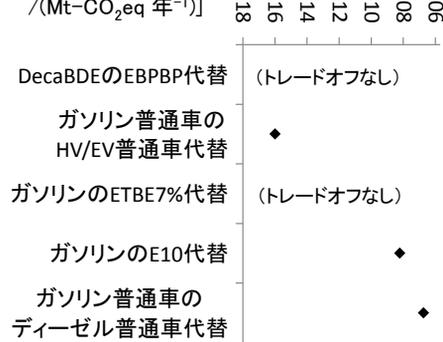
含まれる不確実性に関する知見

リスク管理対策に支配的な情報の価値の定量的評価



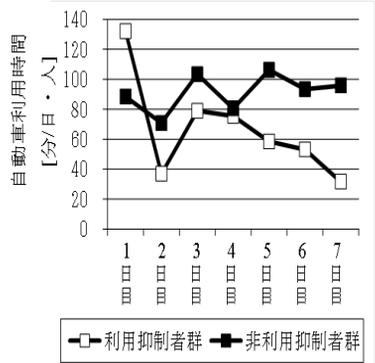
温室効果ガス排出削減に対する健康リスク増加の情報基盤

個人DALY増加量/温室効果ガス削減量  
[(year-DALY 人<sup>-1</sup> 年<sup>-1</sup>) / (Mt-CO<sub>2</sub>e 年<sup>-1</sup>)]



生活者の気づきによる行動変容

自動車利用者1人1日あたりの平均利用時間の推移



今後優先的に収集すべき情報の明確化

## 4. 研究成果と環境政策への貢献

➤ 本研究課題の成果は次の3点である。

- ✓ 情報の価値尺度(EVIU: Expected Value of Including Uncertainty, EVPI: Expected Value of Perfect Information)を用いたリスク評価におけるデータの不確実性の定量化手法の開発。
- ✓ 環境政策の二本柱である化学物質由来のヒト健康リスクと二酸化炭素排出を2軸とした管理対策導入に伴う不確実性分析を含めたリスクトレードオフ解析。
- ✓ 環境会計簿を利用した生活者の交通対策としてのリスクへの気づきによる行動変容に関する基礎的知見の整備。

➤ 交通分野を対象として、不確実性分析を含むリスクトレードオフ解析結果を示した。本方法論は、これまでの単一物質、もしくは、特定のエンドポイントでの評価手法に対して、対抗リスク、および、評価の不確実性を付与した評価枠組みを提示している。今後、府省を横断する環境リスク管理対策において、目標リスクと対抗リスクのトレードオフを加味した管理指針を構築する際の科学的情報の整備への貢献が期待できる。